

# 卒業論文に向けて(4)

---

学部4年生

島本 大輔

2004年11月24日

# 概要

---

- 進捗
- System Service Hooking
- 今後の予定

# 進捗

---

□ Windows版IDS or Sandbox

□ 調査内容

■ API hooking について調査

□ 主に System Service にたいするもの

■ Device Driver の作り方

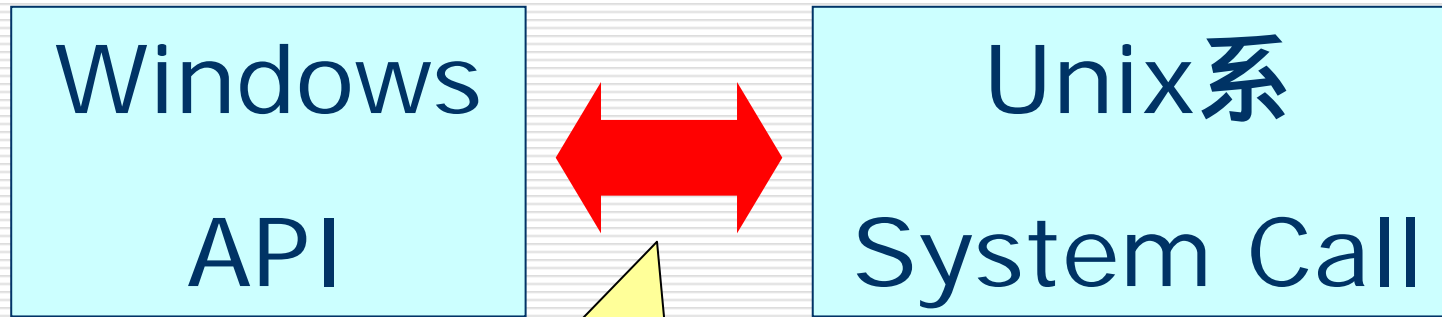
# Windows版IDS or Sandbox

---

- System Service を Hooking
- 今のところ、CreateFile のみ
- strace らしきものができれば、UNIX系列の研究を利用できるはず

# API & System Call

---



今までの  
System call での  
テクニックが利用可能

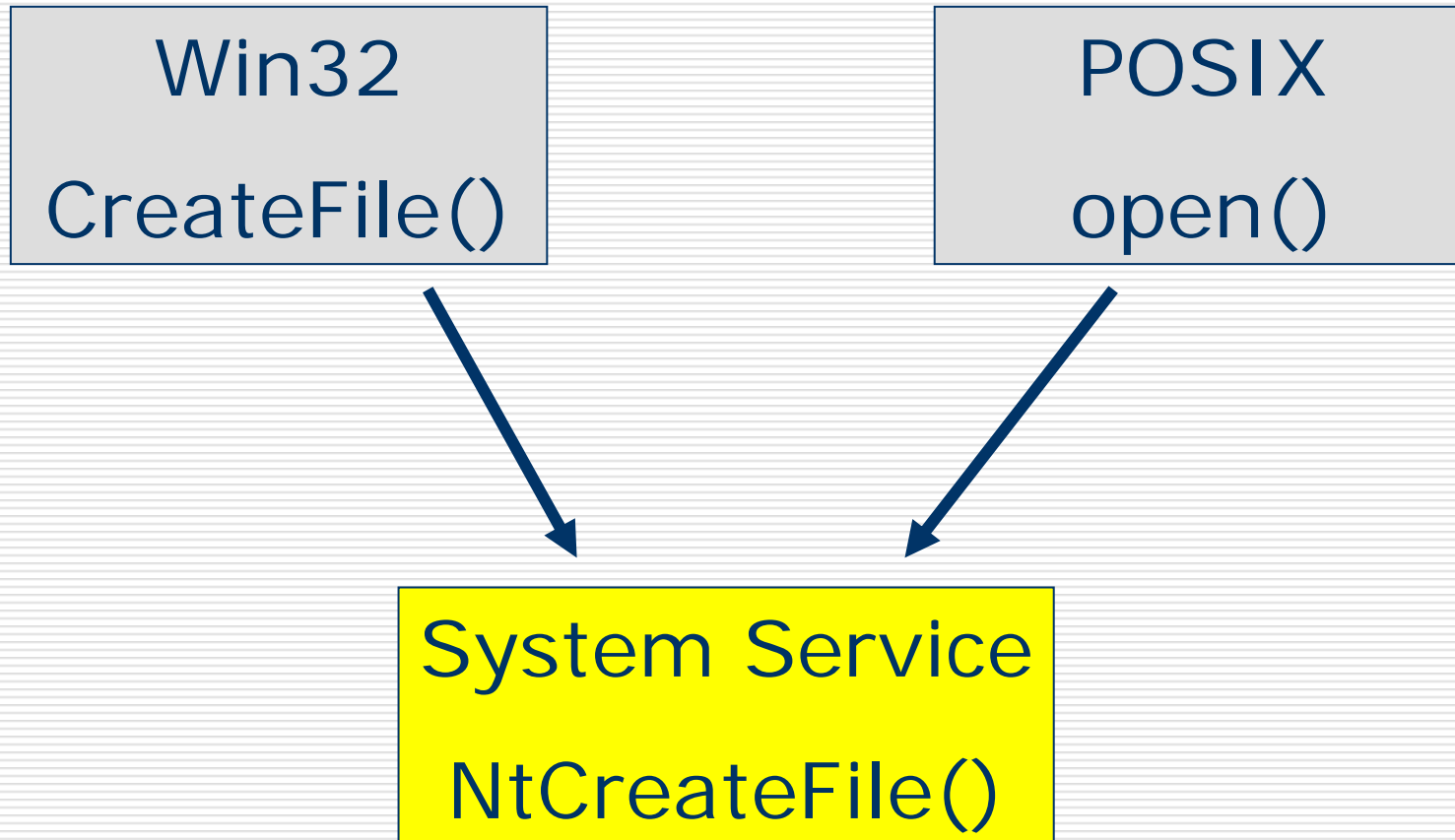
# System Service

---

- Linux の System Call みたいなもの
- NT executive (ntoskrnl.exe の一部) により提供される
- まさしく、Windows の核をなす
  - 例: Win32 CreateFile() と POSIX open() は NTCreateFile() を呼ぶ
- 一部、ドキュメント化されていない！

# System Service

---



# System Service Hooking

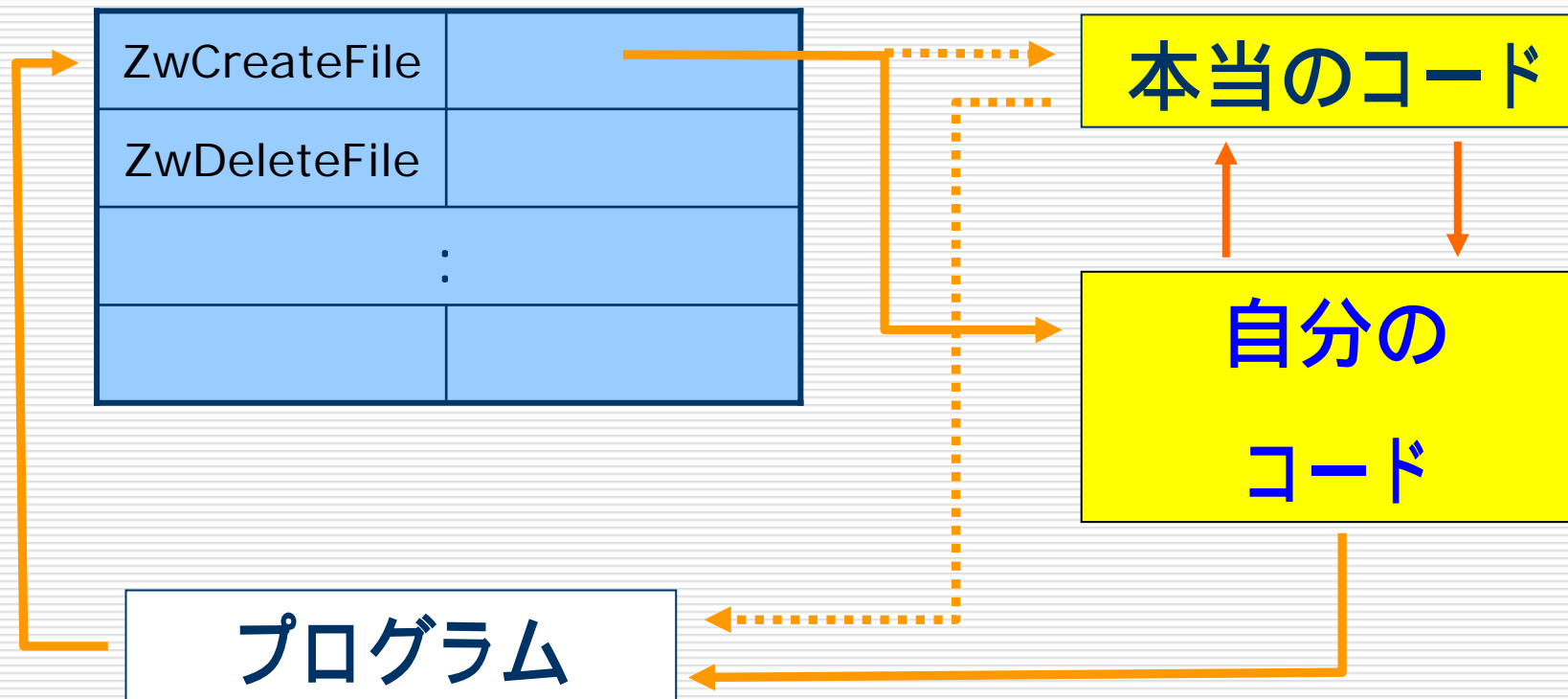
---

- System Service はリスト(System Service Descriptor Table(SSDT))で管理
- SSDT は Service へのポインタを持つ
- このリストの値を変えれば良い  
自分の関数に書き換える
- 当然、Kernel modeで動作  
Device Driver として組み込む



# System Service Hooking

## SDT



# 問題点

---

- 先に hooking されている可能性
- OS のバージョンにより、ntokrn1.exe が微妙に異なる
  - 各OSに対応させるのが面倒
- 有効性が未知数
  - 特定の動作を検出したい場合には有効だが.....

# Implementation

---

## □ 出力

- 今は DbgPrint で出力  
DebugView で確認
- 将来的にはファイル出力

## □ 実演

# 関連研究

---

- System Service Hooking は Rootkit とかに多く使われている [1, 4, 5]
  - 主にプロセス等のリソースを隠すため
- この hooking を検出するツールもある [4]

# 今後の予定

---

- Kernel-mode hooking の実装を続ける
  - API を増やす
  - 出力方法の改良
- 回避策がないか、さらに詳しく調査
- UNIX系の System call の技術の調査

# 参考文献

---

1. Greg Hoglund and Gray McGraw (2004)  
"EXPLOITING SOFTWARE", Addison-Wesley
2. Art Baker and Jerry Lozano (2001)  
"The Windows 2000 Device Driver Book : A Guide For Programmers", Prentice Hall PTR
3. Undocumented Windows NT  
<http://www.windowstlibrary.com/Documents/Book.cfm?DocumentID=356>
4. Rootkit.com  
<http://www.rootkit.com/>
5. Phrack.org  
<http://www.phrack.org/>